

〔伊呂波字類抄天象〕夜ヨル

〔段注説文解字七上〕夕、天舎也、以疊韻、天下休舎休舎猶、休息也、舎止也、夜與夕渾言、不別、析言則殊、小辛卯夕也、从夕亦省聲、羊謝切、古部、

〔下學集上〕宵ヨル也

〔書言字考節用集二〕候寢夜ヨ、小夜、萬葉集、作

〔倭訓栞前編〕十、さよ、萬葉集に小夜と書れど、さよと通ふ、眞夜の義成べし、さよな、かさよ衣の

類是なり、或はさは發語ともいへり、

〔日本釋名上〕時節〔夜〕よるはいる也、日入なり、いとよと通ず、又晝出たる人、夜は一所へよる也、よる

はあつまる意、前説よし、

〔醒睡笑四〕日のいりて後を夜といふは、いかさま仔細あらんやとおもひ、我が折角思案して、い

としあてたはとかたる、なにと工夫したぞ、たとへば朝になれば、とくからおきて山にゆく者

もあり、海にうかぶもあり、市にたつもあり、奉公に出仕するあり、目のくるれば、いづれもみな

我宿々にかへりよるほどに、さてぞよるとはいふなるべし、

〔圓珠庵雜記〕よとよはと、よひと皆同じ、萬葉に初夜をよひとよめるは、まだよひにてふけぬさき

なり、

〔頭書〕眞淵云、後の人は、この初夜のことをのみよひとはいへど、すべての夜をよひとよめること、萬

葉に多し、古今集にもあり、

〔東雅一文〕夜ヨ略、中夜ヨといひ、ヨルといふ、ヨとは今日と明日との中間なればなり、古語に凡

事の節限ある中間をさして、ヨといひけり、夜をヨといひ、前世をサキノヨといひ、後世をノチノ

ヨなどいふが如きも、たとへば竹節の間をいひて、ヨといふが如し、ヨルといふが如き、ルといふ